

論 文 要 旨

専攻名 (又は推薦専攻名)	地域イノベーション学専攻	氏 名 <small>かり がな</small>	おかやま だいせい 岡山 大成	印
学位論文題目 美杉町太郎生における地域課題を考慮したメダラ移植栽培法 (Practical Method of Medara Transplantation to Resolve Regional Problems in Misugicho-Taro)				
<p>本研究は、複数の地域課題に取り組んだ著者の経験を基に、美杉町太郎生における獣害問題に対処するための流れを報告するものである。</p> <p>日本全体として人口減少が問題視される中、言うまでもなく地方あるいは地域においてその影響が大きく、あらゆる物事に対して反映され表出してきている。地方山間部においては少子高齢化の状態により、農業従事者の高齢化や後継者不足に悩まされている。またその結果として、耕作放棄地の増加や獣害による農作物被害の激化に繋がっていると報告されている。</p> <p>以前より予測されていたこのような状況の打開策として、手間が掛からず収量も確保しやすく高単価な植物は無いものかと著者自らも模索してきた。そして、数十種類の農作物や観葉植物などを幅広く育成を試みた。その中でも、高級食材「山菜の王様」として知られるタラノ木、特に棘の無い品種であるメダラに着目し、メダラ栽培を 20 年以上続け各種の知見を得て高い収益性が見込めるに至った。</p> <p>一方で、超高齢化が進む限界集落である美杉町太郎生において、村興し(地域興し)の協力依頼を受け、地域の子供達に対しての学習指導会、高齢者世帯のお手伝い、その一環でもある農地管理など、実に多様な協力をさせていただいた。中でも、耕作放棄地の除草作業は大変であり、なぜ耕作放棄されるのかその理由を調べ、その際に地元においては獣害によって露地栽培が非常に困難であると聞かされた。そこから、メダラの移植栽培を行うためには、地域課題となる獣害防除としての対処が必要である思索が進んだ。</p> <p>一般的には、獣害対策と言えば、農地を防獣ネットで囲い込み害獣の侵入を防ぐものが多く、これは美杉町太郎生においても同様である。しかし、傾斜地や岩盤が地表から浅いところにあるような土地柄では、防獣ネットを張るための杭を打つことも難しい。そこで、コストをかけないために保護竹を 170 cm の高さまで被せ、その位置より上部で更新するという「獣害防除を伴うメダラの移植栽培法」を立案し、複数株の移植でも鹿害を防除できるのかを確かめ本研究の主要課題とした。</p> <p>さらに論考を進め、その思考・行動の工程を一つの「プロセスモデル」思考によるものとして認識した上で、美杉町太郎生における地域活動に適用できるか考察を深めた。また、今後の展望として「認知共有システム」の構築を提案するところまで論述する。</p>				